

HEARTful

笑顔と心をつなぐネットワーク

はーとふる

2019年
秋号

■特集

人と人がつながる街づくり

インタビュー 内山 節さん（哲学者）

｜連載｜

われら明社人 長野県南ブロック協議会の巻

Meisha アーカイブ ～広報～

被災地レポート 福島のを元を発信する
「いわき海洋調べ隊『うみラボ』」



世界につながる 明社運動を

明るい社会づくり運動理事、北東北明るい社会づくり運動連絡協議会会長
岩手県明るい社会づくり運動協議会会長、明社もりおか代表

藤川 智美



4月27日の明るい社会づくり運動提唱五十周年記念大会で、深く心に残ったのは「他人の痛みを自分の痛みと感ずる感性」という大会宣言文の一節です。私はこれを「他人や社会で起こる事柄を自分の事として受け止める感性」と読み取りました。

明るい社会づくり運動は、全国でボランティア活動に参加している会員数や、活動のメニューの数では国内では最大の規模だと思えます。社会から頼りにされ期待されている運動です。記念大会で、「未来の子どもたちにきれいな海を」と題して、大阪府の大岸清氏が廃プラスチックの汚染問題を採り上げ、環境の浄化を訴えました。時代は解決を求めています。調べてみますと、すでに各国が地球規模の課題として対策に動き出しています。大会での提言を、私たちは聞き流すのではなく、具体的な解決策を世界に提案しつつ、明るい社会づくり運動が率先して取り組みたい課題です。次回の理事会に提案しようと思います。人材養成講座「志民カレッジ」が、岩手山青少年

交流の家で、6月に開催しました。今回は、少人数の編成とテーマの設定が特徴です。東北各県と沖縄からの10名が受講しました。テーマは「災害」です。防災、救援、復興に精通し、自主的に行動できるボランティアリーダーの養成をめざしています。

3回講座の1日目は、「地震・津波の基礎」を主題に、斉藤徳美岩手大学名誉教授の迫力ある講義を受講しました。津波は地震によって起り、地震は地球のマグマの対流とプレートの移動によって、日本付近で多く起ります。

斉藤先生は言います。「これは地球の避けられない自然現象です。これからも遭遇するでしょう。従って、畏怖と畏敬の念をもって、未来社会のあり方を考える必要があります」。

講義終了後、レポートを書いて貰いました。どなたも優れた内容でした。これは受講生の高い意欲と、講座がディスカッションも可能な少人数編成による効果だと思いました。

耀メッセージ

1……特集 人と人がつながる街づくり

8……われら明社人

11……被災地レポート—— わすれない、いつまでも

12……Meishaアーカイブ

14……世界の現場から日本が見える

15……各地の活動

16……全国清掃キャンペーン

掲示板

耀!連隊 明社レンジャー

Contents

はーとふる2019年 秋号

【目次】



人と人がつながる 街づくり。

私たちは、こんな取り組みをしています。

新しい支え合い 「コミュニティカフェ」

数年前から全国各地に急増している「コミュニティカフェ」。なぜ広がりを見せているか、その理由をコミュニティカフェのネットワーク化を推進する長寿社会文化協会（以下、WAC）の昆布山良則さんにお聞きすると、「ライフスタイルや価値観の多様化しているいま、人々は適度な距離感を保ったつながりを求めているから」といいます。

では、コミュニティカフェとは、いったいどのようなものなのでしょう。

活動内容をみると「①食事や飲み物の提供 ②子育て支援や高齢者などの生活支援 ③講演会やお菓子作りなどのイベントの開催 ④みんなで地域の情報交換を行う場」といいます。

地域のなかで孤立してしまいがちな高齢者や子育て中の母親たちなどと地域の人をつなぐ場としての「コミュニティカフェ」は、社会貢献として注目を集めています。

例えば、東京都東村山市の「ハナショウブ」は、2011年4月に市民グループによって立ち上げられ、現在、NPO法人ハナショウブ（代表・石山徹さん）が運営しています。場所は中央公民館

のロビーの一角で、毎日10時30分から18時30分までオープンしています。

店内を見ると、学校帰りの学生が楽しいおしゃべりに興じ、高齢者たちは椅子に腰をおろし、静かな時間を過ごしている姿があります。なかには、「仕事帰りに食事をしにくる人もいます」というのは、立ち上げメンバーの一人であり、理事を務める酒井義子さんです。

酒井さんは、20年前から子育て支援の活動に取り組み、「若いママさんたちが気楽に集まって情報交換できる場が必要」と考えていたといいます。

オープンするまでには、メンバーで何度も話し合い、さらに、運営資金を確保するために「10万円を出資して自分の居場所をつくりませんか」と賛同者を募ったといいます。それは、本来、コミュニティカフェが人と人をつなぐ場と考えられていると同時に、運営に携わることで社会との接点ができ、自分たち自身が地域の人たちとつながっている場になると思ったからだといいます。今年でオープンから8年、多くの利用者がカフェを訪れて楽しい時間をすごしています。





NPO法人練馬明るい社会づくりの会（会長・黒江透修さん）が主催する「練馬ファミリーまつり」は、地域社会に密着した活動として、毎年5月の第三週の土・日曜日に開催し、今年で23回を数えます。

15回までは、「チャリティープラザ」の名称で、各家庭に眠っている不用品を必要な方に役立ててもらおうと、「光が丘公園」（東京都練馬区）の敷地内にある区民センターを会場に年1回、バザーを中心に開催していました。バザーへ提供される商品は、明るい社会づくり運動の会員や市民からの寄贈されたもので、「あそここの商品はいいものが多くて安い」と口コミで広がっていく、毎回、顔をだしてくれる人もいます。また、近隣の商店街にも呼びかけて「飲食ブース」も充実してきました。さらに、練馬区名譽



区民の松本零士さんゆかりの銀河鉄道のミニSL、小動物園や乗馬体験、黒江会長が指導する少年野球教室も開催され、今年からは、練馬区内のボーイスカウトが参加協力するなど、子どもから大人まで参加できる「練馬ファミリーまつり」と成長してきました。

「最初は、明社会員の協力での手づくり、手探りの状態でしたが、『NPO法人練馬明るい社会づくりの会』のスロガンである『連携』をコンセプトに、ファミリーまつりで出会った人との縁を大切にしながら取り組んできたことが地域住民に参加していただける『まつり』に成長してきたのだと思います」と語る政二潔事務局長。「まつり」というイベントだけではなく、日ごろから「公園の下枝落とし」や清掃活動などの地道な取り組みをしてきたことで、地域の人びととのつながりがしっかりと築いています。

「まつり」でつながる街づくり

「青葉台三丁目町内会」は、長岡市の西陵地帯に開発された新興住宅地です。昭和50年から宅地販売され、現在は206世帯の約800余人が暮らしています。そんな開発されてまもない地域に町ができ、「町内会」を結成してきた住民は、春・秋の「クリーン作戦」やバーベキュー大会などの催し物を企画し、親睦を図ってきました。そして、平成15年に「自分の事（地域）は、自分（達）で守る」をモットーに、自主防災会を発足しました。

「昔は地域のなかで冠婚葬祭を隣近所が助け合っていたんですが、いまは仕事や生活スタイルが違ってきたのか、そうした相互扶助がなくなってしまうように思います。ですから、自主防災会を立ち上げることで近所の助け合いができるのではないかと」という畔上純一郎さん（現町会長）は、当初の防災員3人で充実した活動をしていくための話し合



いを重ね、防災ユニホームを作り庭木の整備やハチの巣除去など住民の困り事に率先して取り組んできました。また、防災時に行動する班編成は番地の区割りではなく、日ごろ顔を合わせている住民が同じ班になるよう配慮し、各世帯に安否確認の印となる「赤い旗」を配布するなどの取り組みもしてきました。平成16年春には、町内会あげて避難訓練を初めて実施しましたが、この訓練には、全世帯の約8割が参加しました。その半年後に起きた中越地震発生時には、防災委員がリーダーシップを発揮し、住民はみんなで協力しあって避難したといいます。

その後、住民からの提案で防災委員や予算も増えました。

自分たちの地域は自分たちで守る――。「青葉台三丁目町内会」は、自主防災をとおして住民たちがつながり支え合い、安心して暮らせる地域づくりをしています。

「自主防災会」で助け合い、支え合う青葉台三丁目町内会

われら明社人

明るい社会づくり運動長野南ブロック協議会の巻

北に犀川、東に千曲川の清流を控え、
四季折々の大自然に包まれた長野県長野市——。
その東南部に位置する篠ノ井、川中島地区を中心に運動を展開
しているのが長野南ブロックです。事務局長の浅田栄蔵さんに
どのような取り組みをされているのかお話をうかがいました。



Q 長野南ブロックの発足は？

長野県では、昭和44年に県の推進大会を開催
しています。その後、県内の各地区に明るい社
会づくり運動の組織がつくられていき、「長野
南ブロック協議会」が発足したのは、平成13年
のことでした。

長野市は、昭和41年に長野市と篠ノ井市が合
併していますが、市内には、もともとの長野市
を中心とした「北信ブロック協議会」と、かつ
ての篠ノ井市を中心とした「長野南ブロック協
議会」の二つの「明るい社会づくり運動」が存
在していました。役員や会員のなかから、「市
内に二つの明社があると、行政とのかかわりに
混乱をきたすのではないか……」等の声が挙が
り、平成15年から22年までは一つの組織として
活動をしていました。ところが、実際に活動をし
始めてみると、それまでそれぞれが活動をして
きた内容などを統合するには不都合なことも生
じ、平成22年に「地域に根差した運動の展開」
をめざし、再び北信ブロックと南ブロックと別
れて活動をするようになったという経緯があり
ます。

Q 現在、取り組まれている活動は？

私が事務局長に就いたのが8年ほど前のこと
です。それまで副事務局長という立場にありま



事務局長
浅田 栄蔵さん

したが、なかなか積極的な活動をすることがで
ませんでした。ようやく「明るい社会づくり運
動」の活動らしきとなってきたのが5年前のこ
とでした。私が理事を務めている「長野犯罪被
害者支援センター」の「ホンデリング活動」に
参画したこと、しなの鉄道の「川中島駅」と「今
井駅」近くの駐輪場に花壇をつくり、その整備
と花の手入れを行うことになったのです。
「ホンデリング活動」は、家の書棚で眠ってい
る本の寄付を呼びかけ、その本を売った収益金
を犯罪被害者やその家族の支援に充てるという
ものです。また、駅の駐輪場での花壇の整備も、
私が「川中島地区住民自治協議会」（以下、住
民自治協議会）の安全・防災部会長として防犯
活動に取り組んでいたことから、市内のボラン
ティア組織とともに、4年前から川中島地区の
明社のメンバーが参加するようになりました。
当時、駅の駐輪場では、生徒の恐喝や性犯罪、
自転車の盗難が多発していて、「住民自治協議
会」が立正大学の小宮信夫教授を招いて講演会

明

るい社会づくり運動と関わりを
もったのは、平成15年6月に長
野市内で活動する北信ブロック
と長野南ブロックが一緒になった「長野
協議会」が出来たときです。その後、平
成22年3月に北信ブロックと長野南ブロ
ックが別組織になりましたが、私は北信
ブロックの会長を続けていました。

今年に入り、長野南ブロックの会長へ
の就任を依頼され、4月から長野南ブロ
ックの会長を務めさせていただくことにな
りました。また、今年度は、長野南ブロ
ックが長野県明社の輪番であることから、
私は長野県明るい社会づくり運動連
絡協議会の会長も兼務しております。

長野南ブロックはしばらく活動を休眠
していたようですが、5年位前から「認
定NPO法人長野犯罪被害者支援センタ
ー」の行う犯罪被害者支援事業の古本（国
際標準図書）を集めてセンターに寄付し、
活動資金にもらう「ホンデリング活
動」や「しなの鉄道」の今井駅と川中島
駅の駐輪場の周囲に花を植えて育てなが

ら「監視性」を高める防犯活動を行って
いる「川中島地区住民自治協議会 安全
防災部会」の活動に参画していると聞い
ております。

長野南ブロックでは、事務局長が明社
の全国大会の会議に出席し、いま、世界
的規模で海にプラスチックのゴミが大量
に投棄され、その結果「マイクロプラス
チック」が食物連鎖で人体に被害を及ぼ
す問題について学び、今後の明社活動の
目標を認識し、今年の10月からゴミ拾い
運動を毎月2回実施する計画で、将来的
には長野県明社全体の活動に発展させたい
という抱負をもっており、期待してお
ります。



長野南ブロック会長（天台宗常行寺前住職）

東條 英舜



を開催したとき、今井駅に足を運んでいたとき、
その周辺の防犯についてアドバイスをいただい
たのです。そこで、「駐輪場の周囲に花を植え、
育てることで、犯罪抑止効果の一つの『監視性』
が高まること」を覚えていただきました。

花を植えるのは春と秋の年2回ですが、花の
手入れについては「駅に立ち寄ったときは、花
の様子を見ていただけませんか」「時間に余裕
があったら花に水をあげてくださいませんか」
と協力をお願いします。

一人でも多くの市民に、防犯意識をもつていただき、みんなで安全・安心な街づくりをしていきたいと思っています。

Q 今後の課題と展望を お聞かせください

今年の4月に開催された「提唱50周年記念大会」と「全国都道府県会議」に参加しました。なかでも「都道府県会議」で、大阪の大岸清さんの「マイクロプラスチック問題」についての発表には衝撃を受けました。

私も暮らす地域は、白桃やリンゴが実る土地です。この豊かな自然環境と快適な生活環



境を末代までも維持していけるよう努めていきたいと願っていただけに、「これこそ明るい社会づくり運動が取り組む活動だ!」と思いましたね。長野に帰ってから仲間に「ぜひ、ゴミ拾い活動をやってほしい」と話しました。

具体的な取り組み



みについては、これからメンバーで話し合いながら決めていきたいと思っていますが、まずは月2回のゴミ拾い活動の実施を決めました。もちろん行政や他団体との協働である駐輪場の花壇づくりや「ホンデリング活動」は、これまでどおりに参画していきたいと思っています。

こうした明るい社会づくり運動を行ってきたなかで、たくさんの方との出会い、これまで「長野ブロック協議会」の基礎を築いてきてくださった方々から話をお聞きする機会がありました。その一つに、「今井駅」の駐輪場の花壇づくりは「川中島地区住民自治協議会」が始めたものと思っていましたが、元は「長野南明社」会長の千野昭さんご夫婦が「今井駅」の駐輪場



の周囲の花植えを開始されていたことを知りました。

先輩方が取り組まれていた活動を他の団体が引き継ぎ、今再び、私も明るい社会づくり運動が協働で取り組む活動になったということに感慨深いものがあります。小さな取り組みでも、地域みなさんと共に、地道に進めていくことが大事なことだと思っています。